

(6) 赤潮発生状況調査

調査方法

1. 調査定点

大阪湾全域 20 定点（浅海定線調査に準じる）、もしくは東部海域 14 定点（水質監視調査に準じる）

2. 調査期間と調査回数

2009 年 1 月～2009 年 12 月について、貝毒警戒時期である 2 月～4 月、赤潮多発期である 5～9 月は概ね週 1 回、それ以外の月は月 2 回

3. 調査項目

水色、透明度、プランクトン細胞数等

4. 調査船

漁業調査船「おおさか」（28 トン、1009 馬力×2 基）

調査結果

表 1～4 のとおり。

担当者

山本圭吾

表 1 発生継続日数別赤潮発生件数

発生期間	5日以内	6-10日	11-30日	31日以上	計
発生件数	16	3	4	1	24
うち漁業被害を伴った件数	0	0	1	0	1

表2 月別赤潮発生確認件数

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
発生件数	2	1	1	3	4	4	5	3	2	2	2	0
うち前月より 継続した件数	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
被害件数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
うち前月より 継続した件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注)月にまたがって発生した赤潮はそれぞれの月にカウントした。

表3 赤潮構成種別発生件数

No.	赤潮構成種名	発生件数(件)
1	<i>Skeletonema costatum</i>	11
2	<i>Chaetoceros</i> spp.	6
3	<i>Thalassiosira</i> spp.	6
4	<i>Noctiluca scintillans</i>	4
5	<i>Pseudonitzschia</i> sp.	2
6	不明微細鞭毛藻	2
7	<i>Eutreptiella</i> sp.	2
8	<i>Heterosigma akashiwo</i>	2
9	<i>Prorocentrum triestinum</i>	1
10	<i>Rhizosolenia fragilissima</i>	1
11	<i>Prorocentrum dentatum</i>	1
12	<i>Mesodinium rubrum</i>	1
計		39

(注1)最優占種のプランクトン別に年間を統計して赤潮構成種を発生件数の多い順に記入した。

(注2)複合赤潮の構成種はすべて計数した。

表4 赤潮による被害発生状況

整理 番号	被害時 期	原因種	魚種	被害尾数	被害金額	最高細胞密度 (cells/ml)
1 (No. 10)	6.9-6.10	<i>Heterosigma akashiwo</i>	マアジ アワビ幼貝	不明 不明	不明 不明	2.09 × 10 ⁵ (定点調査におけ る細胞密度)